

大和櫻 (六卷)

帝キネ声屋映畫

原作者 山川 芳舟氏
監督者 古海 卓二氏
撮影者 塚越 成二氏

主要役別

母お絹 鈴木 歌子嬢
 杉村良一 吉村 哲哉氏
 姉おたね 千種 香子嬢
 阪本作造 葛木 香一氏
 妹およね 松村 紅子嬢
 中隊長 水島 亮太郎氏

(略筋。人の爲めにも自己の爲めにも有意義な生活を立て村人の崇拜的となつて居た杉山良一と世を助けた阪本作造は妹達の縁ぎ貯めた金まで酒に替へて居たが某國と國交斷絶した時二人は出征した。作造の捨くれ心も其一の誠ある情義に依つて過去を悔ひて眞人間となつて凱旋し、妹達を喜ばせた。)

教育映畫に近い軍事劇である。従つて筋も見透いて居て興味のないのは當然である。そして手取り早い戦争のシーンから豫定の悔悟が豫想外に簡單なのに却つて驚ろかされる感である。古海卓二氏の監督は取立てて評する程もなない。俳優の演技も皆な第壹回の「迷夢」より見劣りする。

興行價值——戦争ものは何時でも受ける。それが日本人の特色なのである。そこを見込んで作つた映畫であり、興行する映畫なのである。

(拾貳月卅壹日 大阪声湯劇場封切)